

## 実世界と仮想世界など（4）

年の初めから統一性の無い内容で、話を4回も続けてしまいましたが、今回で終了です。何を書きたかったのかがわかってもらえないかもしれませんが、いろいろな意味で複雑な時代になったというか、知らないうちに思いもよらない状態に陥ってしまう危険性があるということです。仮想世界も現実にはあるわけは無いと考えられていても、では1つの状態を別な面から考えてみた場合それはまさしく仮想世界であるということができるといふこともありうるということです。気づかないうちに生活の大半を仮想世界の中ですごし、その中から抜けられなくなってしまうこともあるかもしれません。それよりも恐ろしいのは仮想世界はつくられた世界ですから、人為的に操作することも可能で、その中にいるうちにその中のルールに沿った生活となってしまうことです。インターネットを使った宗教活動もありましたし、目に触れないところでネットワークに生活のほとんどのデータが流通していることから、誰かの意志に基づく思想誘導もが可能となります。とはいっても自分の意思の如何にかかわらず世界はネットワーク中心の世界へと移っていることは否定できません。確かに仮想世界では時間と空間の制限から開放され、リアルタイムでいろいろな情報を手に入れることがどこでも可能になります。その点から、これから重要なことは自分というものをしっかりしていくことが必要となります。ネットワークからの情報に左右されるのではなく、必要に応じてネットワークの情報を最大限に活用し、それに自分の判断を加えて生活することが重要です。ネットワークに使われるのではなく、ネットワークを生活に利用するという、受動的でない能動的、積極的な生活が大切になります。

支離滅裂な話のついでに、内容ももう少し別な話になりますが、近未来がどのような世界になると考えられるのでしょうか。確かにネットワークの発達が続き、いろいろなものがネットワークに接続された「ユビキタス」な世界がおとづれることは疑いの無いこととは思いますが、しかし、いろいろな動き、例えば経済活動などがこれまでの繰り返しであれば、「ユビキタス」は生活の破滅に向かってしまうことが考えられます。確かに、これまではこうするとうまくいった物がこれからは成り立たないかもしれません。例えば日本経済にとって、軽工業を起し、重工業に移行し、輸出で経済を成り立たせてきましたが、国内需要についてみれば、大体のものが行き渡ってしまっている状態では大きな需要を創出することは困難な話です。他の国のように貧富の差があり、もてる人ともてない人が存在するのであれば需要を作り出すことは可能でしょうが、日本は平均的にいろいろなものをもっている中流階級であると考えている人がほとんどでは、これ以上の需要は困難です。これまでは使っているものを捨てて次を購入することはありましたが、もう既にそんな状況ではありません。現在のものを何とか使っていこう、必要なものは大部分既にあるような状態です。ではこれからのネット時代にどうすれば良いかですが、これからは、購買などのこれまでであったものをネットワークに乗せたものではなく、仮想社会を積極的に構築して、その世界の中での情報蓄積、交換やコミュニケーションを行うようなこれまでとは違ったサービス業が伸びるものとなるのではないのでしょうか。現実これからと思われたドットコム企業がうまくいっていません。1つの形態が続くのは10年から20年という話があります。これまでのサイバーシティはショッピングモールが中心でしたが、インターネットの中に商業中心でない町をつくり運用することがこれからのサービスです。そのままというのはそんなに長く続かないのですから。（連載終了）

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 2月25日号

特集 発信源はゴマ粒チップ

→2mm角以下のゴマ粒のように小さいICチップが社会に大きな変化をもたらす。このチップは無線タグで、いろいろなものに埋め込まれネットワークに接続される。商品につければスーパーのレジは必要なくなり、冷蔵庫は何が入っているかがわかる。携帯やカードにつければその場所の情報が供給される。応用は車両の盗難防止からおもちゃまで広がろうとしている。

○日経パソコン 3月4日号

特集 XPにお引越し

→新OS、XPへの引越しには「ファイルと設定の転送ウィザード」が付属しているが、便利な反面落とし穴が多いため事前準備が必要になる。そこで、引越しの基本から実践マニュアルまでを特集。

レポート つかってみようインターネット電話

→安かろう悪かろうの時代から脱して実用期に入ったインターネット電話。現在登場している各サービスを紹介。パソコン同志から一般電話との接続まで。

○日経バイト 3月号

特集 ネット“盗聴”の脅威

→フリーソフトの packets キャッチャーツールを使えばネットワーク上を流れる暗号化されていないユーザ、パスワードを読み取ることは簡単にできる。このようなネットワーク盗聴の脅威は無線LANや常時接続の登場によって大きく変化した。無線LANは盗聴されるものと思い、スイッチングHUBを使っても安心はできない。

特集 Windows .NET Serverの核心

→次期サーバ向けWindowsである「Windows .NET Server」が年内に出荷される。大きな違いはIISのアーキテクチャの変更で、基本的にWebアプリごとに実行環境を分離し、安定動作を実現することを目標としている。それによってアプリケーションのつくり方も変わる。

レポート 危ないIE

→ブラウザとしてよく使われているIEに数多くのセキュリティホールが見つかっている。ふさげども尽きないセキュリティホールを持つIEの現状レポート。

○日経ネットビジネス 2月25日号

特集 ヤフーと楽天激突する“総取り戦略”

→ポータルトップの“ヤフー”とショッピング分野で独走する“楽天”は、ネットサービスで事業拡大を続けている。この拡大する事業領域に各社戦々恐々としている。

特集 地図サービスで千客万来

→地図サービスは、単なる地図から、店舗にお客を呼び込むツールへと重要な意味を持つようになってきている。

○N+I MAGAZINE 3月号

特集 Webネットワーク システムデザインの最新ノウハウ

→企業内システムが専用のものからWebをインターフェースとしたもの  
に変わってきている。いまやいろいろなシステムがWebネットワーク  
システムとして再構築されようとしている。現在のWebシステムの最  
新動向と構築、運用手法についての解説。

特集 最新モバイルソリューション事例

→営業効率を格段に向上させる、機動力を最大限に生かすことのできる携  
帯電話やPDAを中心としたモバイルソリューションの事例紹介。

特集 ログのとり方と読み方 [基礎編]

→ネットワーク管理、運用に重要なログの見方の解説。

○ASCII 3月号

特集 ブロードバンド最深情報

→自分のドメインとホスティングを利用する場合の利用の仕方とその効果  
についての特集。

○DOS/V magazine 3月15日号

特集 最新CPU全域測定

→簡単には比較できなくなった各CPUの性能。新CPUの解説から、高  
性能CPU、デュアルCPUなどいろいろな面からCPUの特集。